

(様式2)

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591700149		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホームありがとう家小新保		
所在地	新潟県五泉市村松小新保1289番地1		
自己評価作成日	平成27年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成28年1月31日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に恵まれ、敷地内の日本庭園では春には若葉が、秋には紅葉がと四季の移ろいを感じることが出来ます。庭の草取りや畑での作付、収穫と折にふれ自然とふれあうことが出来ます。建物の共有スペースのホールからは、地域のシンボルでもある白山を正面に見渡すことが出来ます。法人主催の地域交流事業の納涼祭や芋煮会への参加、事業所主催の茶話会等での施設間交流を図っています。近所には大型商業施設や昔からの馴染みの商店街もあり利用者様と散歩や買い物に出かける機会もあります。消防訓練では、近隣住民の方からの参加、協力が得られました。近所にある保育園児が散歩の途中に遊びによってくれることが多くあり利用者様にとって、新しい馴染みの関係が育っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体は、五泉地域で介護保険事業だけでなく、保育事業も行っている特定非営利活動法人であり、介護保険事業に関しては地域のニーズに合わせてグループホームのほか、訪問介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業所、地域密着型介護老人福祉施設など、幅広く事業を行っている。

当事業所は、平成26年4月1日に法人内で2番目のグループホームとして開設され、地域で馴染みの商店街や病院にほど近い場所に位置している。

開設してまだ2年目ながらも、管理者・職員共に「受容」「尊敬」「共生」という法人理念を念頭に置き、利用者が生きる希望と喜びを持てるよう支援を行うと共に、地域の方々との交流や伝統文化の継承を心がけた事業所作りに努めている。

また、日常的な地域との関わりだけでなく地域でのイベントの開催にも積極的に協力をするなど、利用者が今までの人生で培ってきた家族や地域との関係性の継続に意識的に取り組んでおり、地域密着型サービス事業所として地域に根ざした事業所作りに努めている。

利用者の日常生活においても慣れ親しんできた習慣や地域の伝統文化を取り込んで、漬物を漬けたり、一緒に食事の準備を行うなど、理念に沿った運営を行っており、今後、地域の福祉の拠点として発展していくことが大いに期待される事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、内部研修等で運営理念、運営方針について確認、共有し理念に基づいた支援に努めている。	法人内で共通である理念は、毎年年度初めに行われる内部研修や毎月定期的に行われる職員会議の中で共有理解を深めている。また、毎年事業所目標を作成して理念を実践に結び付けるよう努めている。	理念の意味が職員間で共有され、ケアの場面で実現できるよう、事業所としての独自性のある理念をより具体的な言葉で表すなど、さらなる工夫に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人主催の地域交流事業への参加、地元商店街での買い物や散歩時の挨拶等で地域、ご近所とのつながりが継続できるように支援している。	日常的に挨拶を交わす付き合いだけでなく、普段から馴染みの店に買い物に出かけるなど、今まで培ってきた利用者や地域とのつながりを意識した支援をしている。また、一方的にボランティアにきてもらうのではなく、地域住民と協力して行事を開催するなど双方向的な関わりを行っており、地域の主などこへ広報誌等の配布もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での取り組みや活動について広報誌を地域に回覧し情報の発信に努め、地域の方からも消防訓練に参加を頂き、認知症の方の支援について理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の現況や取り組みについて報告し意見、助言を頂きサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者、家族、市の担当者、地域包括支援センター職員、地域の民俗学研究者、地域代表者、近隣保育園園長、嘱託医関係者等が参加し、運営状況の報告の後、多角的な視点からの助言や意見・要望等を得てサービス向上に活かしている。また、会議録は玄関に設置し、来訪者がいつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回市の担当者、地域包括支援センターの職員から参加があり、事業所の実情やサービスの取り組み等について助言をいただいたり、情報の交換を行っている。	市の担当者とは日頃から連携を密に取っており、運営推進会議にも出席してもらって助言等を得ている。また、地域包括支援センター職員を招いての研修会を開催したり、地域のグループホーム関係者が集まって開催される連絡協議会にも参加して情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない。職員は事業所マニュアルや研修により、身体拘束について理解しケアに取り組んでいる。	全職員を対象に毎年定期的に研修会を開催したり、マニュアルを整備している。また、普段から言葉づかいにも注意し、気になる言動は職員間で注意し合うなど、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修でマニュアルの確認、学ぶ機会を持ち、外部研修等で学んだ職員による復命報告を全職員が研修として取り組み、高齢者虐待防止関連法、精神的虐待等について理解を深めている。	外部研修に参加した職員が資料を配布して伝達講習を実施するなど周知に努めている。職員のストレス回避について管理者は、職員が心身共に安定して仕事ができるように、希望休暇への配慮やお互いに相談し合える関係作りに努めるなどの工夫を行っている。また、ケアの実践の場での情報の共有や共通のケアの実践を意識的に行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について外部研修に参加した職員による復命報告を行い理解を深めたが、実際に制度を利用されている方はおられず活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定等の際には十分説明をし理解いただいている。質問や疑問については随時回答し理解、納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に関しての日々の様子や連絡事項についてご家族様と連絡を密に取り合い、意見や要望の言いやすい関係づくりに努めている。	普段の関わりでの利用者の意見だけでなく、生活の様子等からも希望や要望をくみ取り、ケア内容に反映するようにしている。家族が意見を出しやすいように職員から積極的に声をかけるように努めており、面会時や電話連絡時、行事等の際に、意見や要望を聞きだすようにしたり、面会カードに意見や要望を記載できるように工夫している。また、より家族側の意見が得られるよう、今年度から運営推進会議の家族代表を1名から2名に増員した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やケア会議、委員会会議等の開催で、意見や提案の出やすい環境、聞く機会を設け運営に反映させるよう工夫している。	毎日のミーティングや毎月の職員会議、各委員会において職員間で意見を出し合っており、提案された意見を運営に活かすよう努めている。また、定期的に個別面談を行う機会も設けている。職員の提案によって手すりを設置するなど、環境が改善された例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談等で、職員個々の努力、実績等現状について理解、把握に努め、やりがいのある職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人の力量に応じた研修に参加を促し、実践力の向上に努め働きながらスキルアップしようとする職員を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者の連絡協議会に参加し意見、情報の交換を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様に基本情報シートの作成をお願いし、生活歴を十分把握しコミュニケーションを図りながら、要望や希望を確認し、安心につながる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安、要望を傾聴し話のしやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思い、ご家族の要望を聞き、必要としている支援を見極め、事業所で出来る支援と他のサービスの説明を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事については積極的に参加を促し、不得手な事については、一緒に関わり楽しみを持って参加して頂けるように声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲内での通院の付添い、面会をお願いし家族との関係、絆を大切にしながら良好な関係が継続するように努めている。	行事には積極的に家族の参加を働きかけている。受診付き添いや買い物など家族に依頼できることは協力をお願いし、本人と家族の関係継続に留意しつつ共に本人を支えていけるように努めている。また、年4回、近況報告を記載した広報紙を発行し、家族との関係作りを行っている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の訪問等には温かく迎えている。馴染みの店等への訪問、利用希望には、ご本人が大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	入居時に利用者や家族と共にセンター方式のアセスメントシートを作成して、馴染みの人や場所に関する情報を把握している。また、これまで培ってきた馴染みの人との関係が継続できるよう手紙や電話等の支援を行ったり、家族の協力を得て行きつけの美容室等へ行けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性や習慣等を把握し、お互いの雰囲気や関係が、安心で良好なものであるように必要時、間に入りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(退去)された時点で関係は途切れるが、その後について様子を伝えて来られるご家族には温かく接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中からお本人の希望や意向等を聞き取れるよう関わっている。気付いたことは記録として残し職員間で共有するように努めている。	利用者のちょっとした言動にも気を配り、思いの把握に努めている。また、言葉だけでなく快・不快を表す表情や仕草にも注意して観察し、思いや意向を理解できるように努めている。得られた情報はケース記録に記載して職員間で共有を図っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、いままでの生活歴等の情報シートの記入をお願いしている。また、日々の生活のなかで知り得た情報等は、ケースやシートへの記入で職員間の情報の共有に努めている。	入居時に利用者や家族と共にセンター方式のアセスメントシートを作成して、これまでの暮らしに関する情報を把握している。また、日々の利用者との関わりや、家族からの話の中で得られた情報もアセスメントシートに追記し職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムや、心身の状態の把握に努めている。買い物や、調理の下ごしらえ等、出来る事に参加して頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ケア会議等でご本人の現状の課題等について意見交換を行い、現状に即したサービスの提供が出来るように努めている。またご本人の意向の確認やご家族の意見、意向の確認を行っている。	1人の利用者に担当職員が3人つくグループ形式の担当制をとっており、多角的な視点でアセスメントやモニタリングを実施している。本人や家族の意向・希望及び、職員が日々の関わりから把握した情報や気づきなどを反映させて介護計画を作成している。	サービスの実施の有無だけでなく、利用者の心情まで観察した細やかな記録をしている。今後さらに介護計画の実施状況が明確にわかる記録と、効率よくモニタリングができる工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子や、気づき等を個々のケースへ記入し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や外出等、ご家族の対応が困難な場合は、職員が対応している。ご本人のストレスや心配、家族の負担が増えないように、その時々に必要なニーズに柔軟に対応するように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの場所への外出支援や家族、友人とのつながりを大切に、今までの関係性が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係は継続し、受診時、日々の様子を口頭、手紙や生活シートでの情報提供等で詳しく伝達し指示を仰いでいる。協力医に受診の場合は、必要時職員対応にて適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望に応じて、入居前からのかかりつけ医の継続を原則としているが、事業所の嘱託医への受診等もできるように支援している。受診の際には、適切な医療が受けられるよう必要に応じて電話や手紙で医師へ情報提供を行っている。基本は家族に受診同行を依頼しているが、できない場合や緊急時は職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職の配置はないが、生活の中での情報や、気づき等は受診時医療機関に伝達し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向き、ご本人との関わりが途切れないように努め、担当医師、看護師、ケースワーカー、ご家族を含めた話し合いに参加し情報の共有に努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、利用条件等の説明を行い、理解して頂いている。重度化した場合については、早い段階で家族と話し合い特養への申込みを勧める事になる。	契約時に、重度化した場合や終末期の対応ができないことを十分に説明している。重度化した際は、早い段階で家族と相談し、同法人の特別養護老人ホームや他施設への移行など必要な支援を行っている。また、ケアの継続性や心身の負担を考慮し、同法人の特別養護老人ホームへの入所に関するバックアップ体制も整備されている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故発生に備えて内部研修、外部研修を行っている。AEDの研修を全職員が受講し実践に不安がないように定期的に訓練を実施している。	全職員が消防署主催の普通救命講習を受講しており、定期的に更新研修にも参加している。さらに、誤嚥・骨折・意識消失などの急変や事故発生時に備えてマニュアルを整備している。「研修委員会」により、全ての職員が年1回は必ず参加する救急法の講習会を実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害を想定した訓練を行っている。消防署の立会いでの総合消防訓練を実施し、訓練時には地域の方からの参加協力が得られている。	年2回は消防署立会いのもとで日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。避難訓練には、事業所の職員だけではなく、地域住民や運営推進会議のメンバー、近隣医療機関関係者も参加してもらうなど、災害時の地域との協力関係の構築にも努めている。備蓄についても3日分をリストアップして確保し保管している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を年長者として敬う気持ちを忘れずに、その方の誇りや、人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉がけに努めている。	排泄支援の場面では、本人の羞恥心に配慮したさりげない声かけや誘導方法を心がけており、入浴の際も希望に合わせて同性介助を行い、一人の職員がはじめから終わりまで関わるようにしている。また、職員間で情報交換する際も部屋の番号で行ったり、お互いの利用者への声かけ方をミーティングで確認し合うなどプライバシーの確保や人格の尊重に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中での表情や会話に耳を傾け、本人のわかり易い言葉がけで自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムやペースに合わせて対応するように努めているが、職員の都合が優先する事もある。その際には皆様に説明、お願いし、了承して頂くように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の個性を、大切に身だしなみ、洋服選びも一緒に行っている。希望があれば馴染みの美容室への外出支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握して、旬のもの、地元の野菜、米を使い献立を立てている。調理の下ごしらえや配膳、下膳等して頂いている。	利用者の意見を参考にして献立を作成したり、調理や盛り付け、後片付け等にてできる範囲で利用者に参加してもらっている。また、庭の畑で採れたトマト、ナス、キュウリを食材として活かしたり、漬物作りや材料の仕込み等で利用者の慣れ親しんできた習慣や培ってきた力が発揮できるように支援している。時には、季節に合わせた行事食を計画したり、外出して食事を楽しむなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の習慣や、必要に応じた形態での提供を行っている。お茶以外にも好みの飲料が提供できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の、口腔ケアの見守り及び、介助を必要とする方への対応を行っている。就寝時には義歯の消毒洗浄を実施し口腔内トラブルの防止を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に応じた排泄支援を実施している。排泄表を活用しての排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導で自立に向けた支援を行っている。	排泄に関する記録を個別に細かく取って排泄のパターンを把握し、声のかけ方を工夫するなどして一人ひとりに合った排泄のケアを実践している。実際に要介護5の方でもオムツを使用しない支援が成功した事例もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表への記入で、個々の排便状況の把握に努め、野菜や乳製品、水分の補給を促している。必要に応じ主治医の指示を仰ぎ下剤の投与等、個々に応じた支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日固定の入浴支援を実施しているが、その時々で柔軟に対応している。ゆっくり入浴を楽しんでいただけるように、お湯の温度や、量等に配慮している。	週に3回の入浴を基本としているが、入浴回数や時間に関しては希望に合わせて柔軟に対応している。また、最初から最後まで一人の職員で関わったり、可能な限り同性介助を行うなど、プライバシーに配慮してゆっくり入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また、入浴剤を使用して変わり湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるように、室内温度や照明、居室環境を整えている。一人一人の生活習慣や状況に応じて休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケース台帳に内服薬の処方箋を綴じ、目的、用法、用量、副作用について周知できるようにしている。内服後は状態観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションへの参加や制作活動、散歩やドライブ等一人一人の出来る事、楽しみな事の把握に努め、張り合いや喜びを持って生活ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、日用品の買い物、ドライブ(足湯、紅葉狩り)等の外出支援をしている。法人主催の、地域交流事業の参加を皆様楽しみにされている。	天気の良い日は散歩に出かけ、近所の住民や近隣の保育園児と交流を図っている。年2回は外出行事を計画して、地域の公園や温泉に出かけて昼食を食べたり足湯を楽しんだりしている。また、利用者の希望に合わせて一緒に買い物に出かけたり、自宅の様子が気になる利用者の要望に合わせて外出を支援するなど、出来る限り利用者の要望には柔軟な対応をしており、友人や家族の協力を得て外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には所持して頂いている。また買い物時は支払もして頂いている。クリーニング店や、新聞屋の支払いを利用した方、個々に支払して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話を希望される方にはその希望に沿った支援を行っている。また携帯電話を所持されている方は、トラブルが生じないように配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が心地よく、安全であるように家具の配置や、温度、照明に配慮している。壁面装飾(利用者作成)の掲示や、季節の花等を飾り季節感を取り入れている。	共有スペースは死角が少なく開放感のある広い空間であり、大きな窓からは、正面に昔から慣れ親しんできた山並みを臨めたり、事業所の広い庭を見ることができ、四季折々の風景の移り変わりが感じられる。また、近隣の保育園児達が散歩する姿が見えるなど、戸外の様子を楽しむことができる。食事をするテーブル席の他に、くつろいで過ごせるようにソファを設置したり、壁には利用者が参加して作成した装飾が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他カウンターキッチンや、ソファセット、玄関の休息用椅子と各々、思いおもいに自由に寛げる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具、思いでの物をお持ちいただき安心して生活できるよう居室環境を整えている。	居室の設えは基本的に本人や家族の自由となっており、本人や家族と相談しながら、本人の使い慣れた物や思い出の物を持ち込んでもらって本人が居心地よく過ごせるように工夫している。また、使い慣れた家具や道具の他にも個人の趣味の物、興味のあるものを置き、一人ひとりの好みに合った居室になるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間のホールに安全に移動できるようにテーブル、椅子を配置し居室にはネームプレート、トイレはイラスト表示でわかり易いように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				